

土木工学・建築学委員会企画分科会  
環境工学連合小委員会（第24期・第7回）  
議事録

日時 令和2年1月15日（水）10:00～12:00

会場 日本学術会議6階 5-A 会議室

出席者 米田，浅見，森口，西嶋，江頭，藤倉，新苗，大岡，小澤，高島，奥田，神原，醍醐，金澤，梅村，小口，村上（文責）  
オブザーバー 北島（土木学会 坂巻委員代理），桃井（土木学会）、岡部（環境資源工学会），河瀬（日本化学会）

配付資料

- 資料 1環境工学連合小委員会(第 24 期・第 6 回)議事録
- 資料 2-1 [主催提案書]「第 33 回環境工学連合講演会」
- 資料 2-2 第 33 回環境工学連合講演会プログラム案
- 資料 3 第 34 回以降の環境工学連合講演会の運営体制及びテーマについて
- 資料 4 小委員会の今後の検討課題について

議事

議事に先立ち，定足数を満たしていることの確認があった。

1. 前回議事録の確認

- 前回小委員会までの議論の経過・内容を確認した。

2. 第33回環境工学連合講演会のプログラム案および広報について

- 資料2-1に基づき，森口小委員長から趣旨提案書の説明があった。
- 資料2-2に基づき，北島委員代理から企画内容の詳細および準備状況について説明があった。
  - 資料中のA-04の講演者名に誤字があることが指摘された。（川久保俊先生が正しい）
  - 資料2-2の会議の英文タイトルが33thとあるが33rdが正しい。
- ポスター，チラシ案が示され，これに基づく広報を行いたく，各学協会には協力を願いたいことが説明され了承された。
  - ポスター等のURLは前後の括弧との間にスペースを設ける，もしくは無くなる等，リンクのしやすいフォームを検討する方が良い。
  - 幹事会にて承認次第，学術会議事務局から幹事学会へ連絡を頂き，広報を開始することとなった。これにあわせて，申込サイトをオープンさせることになる。
- 次回への申し送りとして，以下の内容を検討することがあげられた。
  - 幹事学会からプログラム確定の委員会前（今回が該当）に講演者に

対してプログラム案の確認をすることとした。

- 広報における資料としての案内文の雛形を用意する。今回は資料2-1の開催趣旨をベースに各学協会が使うことが可能。
- ポスターチラシ等に掲載趣旨を掲載するかどうかの検討を行う。この場合にはその文章に対しても上位委員会の承認が必要になる可能性があり、早めの準備が必要になる点は注意が必要。

### 3. 第34回以降の環境工学連合講演会の運営体制及びテーマについて

- 資料3に基づき森口小委員長から説明・議論があった。重要な点は以下の通り。
  - 会計に関連して、学術会議の検討状況等について米田委員から説明があった。
  - 第34回講演会に固有の問題として、資料中の項目4の学術会議の委員任期の件に関しては、上位委員会からの委員の構成を含め（講演会を主催するにあたって2名以上の登壇が必要であるため）注意が必要である。
  - 上に関連して、小委員長から現委員あてに、委員交代の予定に関する照会をすることとなった。
- 第34回講演会について、未来志向、教育といったテーマをテーマ候補としてはどうかとの発言が幹事学会からあり、支持された。あわせて、早めにテーマ候補が示されると各学協会での講演者選定の議論の時間が多く取れるとの発言があった。

### 4. 小委員会の今後の検討課題について

- 資料4に基づき森口小委員長から説明があり、議論がなされた。重要な点は以下の通り。
  - 資料中の項目1にあるように、過去の講演会の記録について初回以降の講演論文集を保管している学会がある（日本水環境学会）ことが確認された。
  - 講演会の運営体制について。第34回以降について、副幹事学会と呼ぶべきかどうかは別に、次年度の幹事学会から誰かが運営に入ることによって円滑に引き継ぎを可能としてはどうかとの提案があった。
  - 今年11月頃から、講堂に工事ははいる可能性があることから、第34回の開催場所、その経費について注意が必要である。まず各学協会の保有している講堂等で開催可能かどうかを早めに確認した方が良い。
- 浅見委員から環境学委員会の活動状況に関する紹介があり、例えば学術の動向で特集号を組む際に、環境工学連合講演会から寄稿するといったことを検討する可能性があるのではと言う提案があった。

### 5. その他

- 次回小委員会は第33回講演会の昼休み（2020年5月19日）に開催とす

- る。
- 次々回は小委員会の委員任期との関係もあり 8月末から9月を前提に早めに日程調整を行うこととなった。

以上